

中原区ソーシャルデザインセンター 創出に向けた検討会

中原区役所まちづくり推進部企画課

令和4年3月18日(金)18時30分開会

次第

1. 本日の目的
2. おさらい
3. 地域包括支援センター活動紹介
4. 意見交換
5. その他

※グループワークの際等お話しいただく場合以外はミュートでお願いします。事務局の方でミュートにさせていただきます場合がありますが、御理解ください。

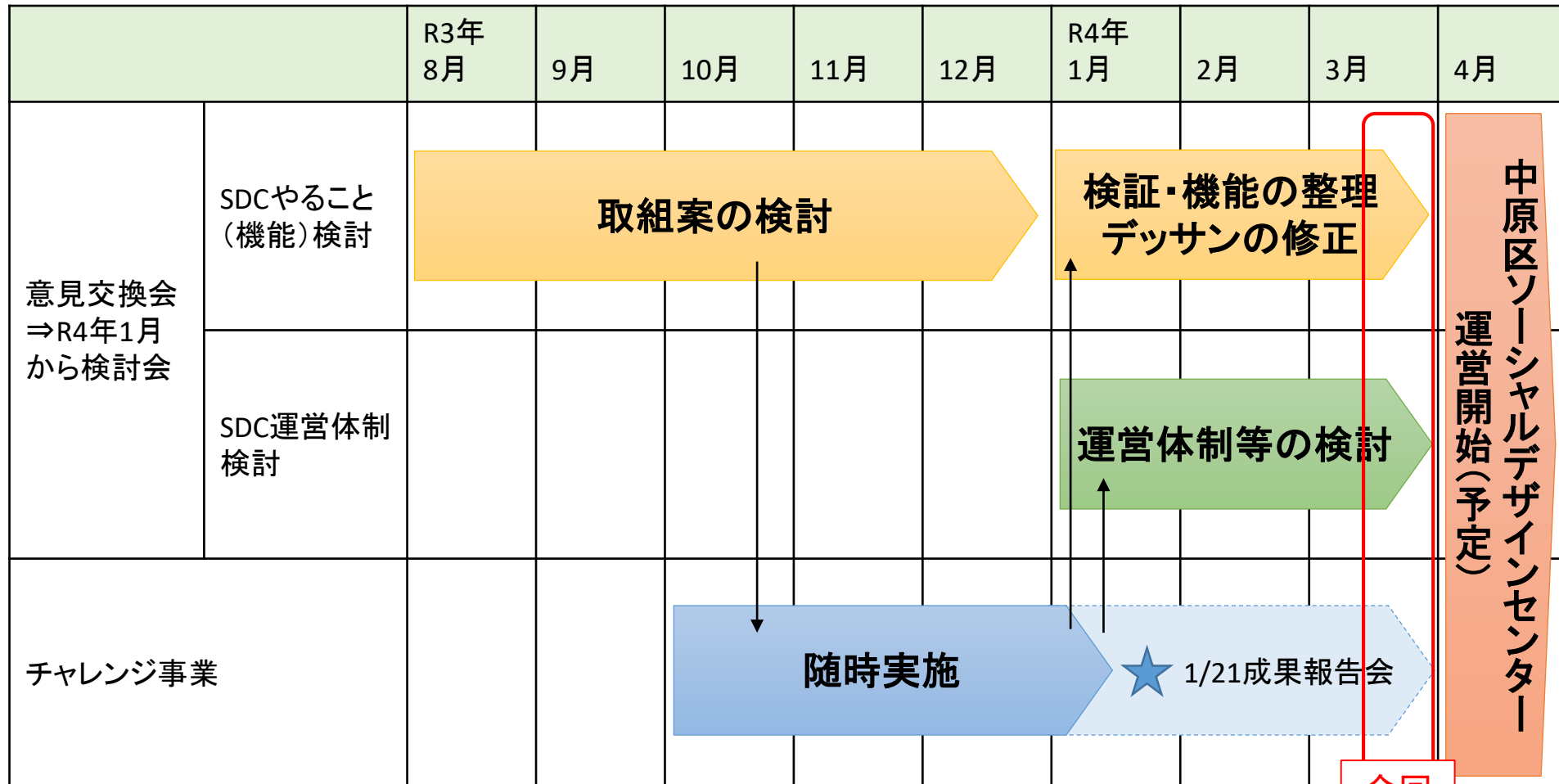
1. 本日の目的

○本日の目的

- ・ SDCとしてまず取り組むことについて検討する

2. おさらい

○検討のスケジュール

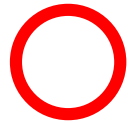


中原区ソーシャルデザインセンター
運営開始(予定)

今回

おさらい

ソーシャルデザインセンターとは・・・
地域で新しい活動や価値を生み出す基盤
(プラットフォーム)



- ・コミュニティ活動の基盤
- ・地域主体(地域住民)
- ・資源を持ち寄る、
自主財源を探す
- ・コミュニティの基盤
づくりに必要なこと



- コミュニティ活動
- 行政(区役所)
- 行政からの補助金

- 活動場所

おさらい

○中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けたデッサン(抜粋)

設置案

地域活動の主体ではなく、地域の活動を**支援するプラットフォーム（基盤）**として、地域のさまざまな人や取組について「知る」「集う」「つながる」機会をつくります。

場所

- ・ 中原市民館ラウンジに設置します。
- ・ オンライン上の場も作ります。

※中原市民館ラウンジは令和3年5月現在、利用できません

主体・運営

- ・ 興味、関心のあることで参加できる自由参加の場とします。
- ・ 参加者がそれぞれの資源を持ち寄り運営します。

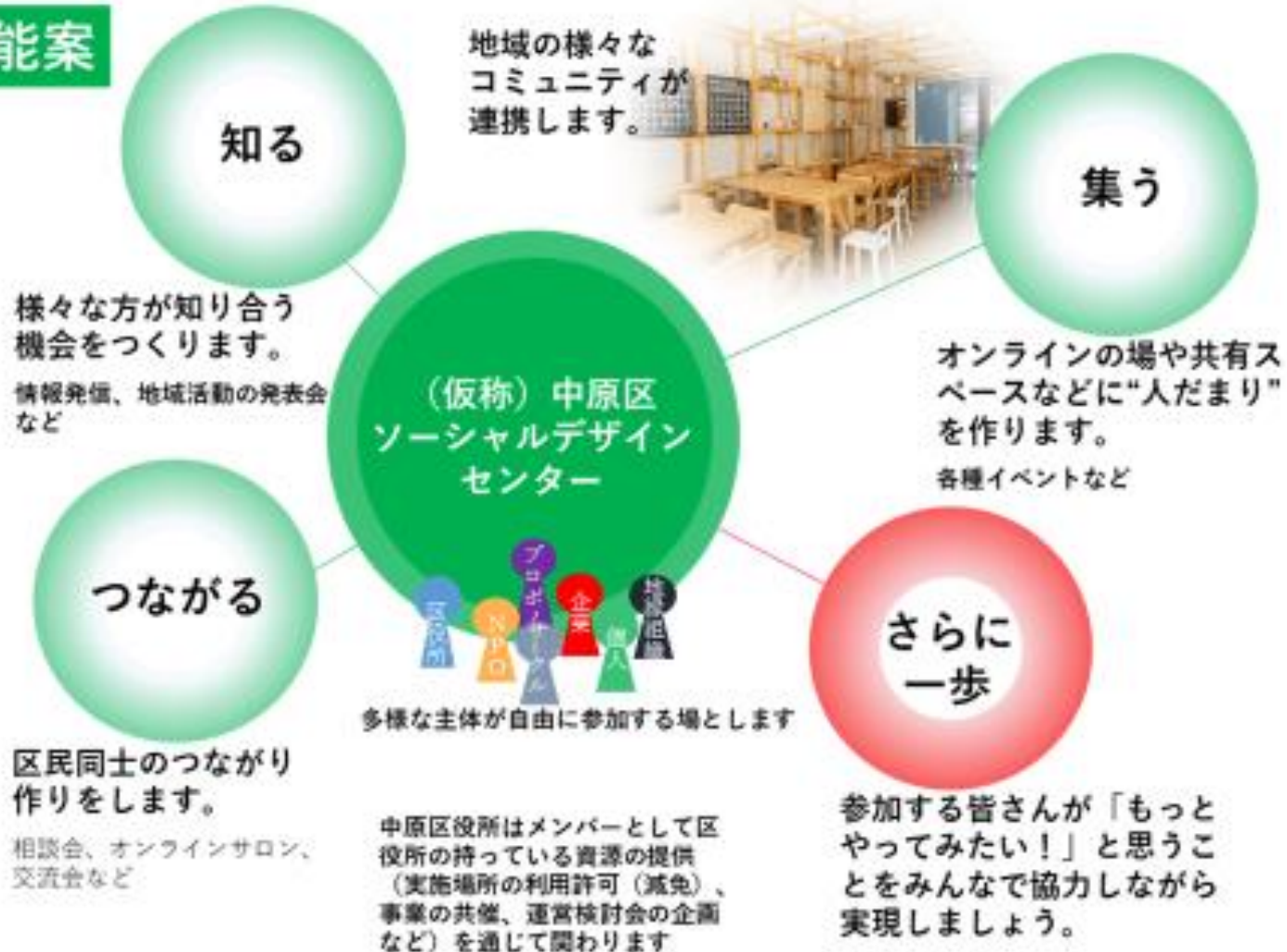
機能

- ・ 情報発信、勉強会、交流会、相談会、シェアオフィスなど「知る」、「集う」、「つながる」を実践します。
- ・ 地域の方同士でコーディネートできる関係づくりを進めます。

おさらい

○中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けたデッサン(抜粋)

機能案



おさらい

○デッサン修正案 (1月21日中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会グループノートまとめ)

機能案

○情報収集・発信

- ・発信したい人が集まり、メディアへ情報提供をする
- ・情報へアクセスできる場・媒体を作る(何でも情報SNS、区の情報を気軽に聞ける場、地域課題カタログ)

知る

地域の様々なコミュニティが連携します。

集う



(仮称) 中原区
ソーシャルデザイン
センター



多様な主体が自由に参加する場とします

つながる

○場の提供

- ・気軽に集える場(リアルとオンライン)を作る
- ・活動や人がつながる場を作る
- ・活動場所の提供

その他

○マッチング・コーディネート

- ・「人」と「人や情報」をマッチングする
- ・コーディネートを行う(コーディネーターがいる、リンクワーカーがつながる場、コラボ生まれる新しい場を作る)

○中継点(HUB)

- ・地域情報や団体間のHUBとなる

中原区役所はメンバーとして区役所の持っている資源の提供(実施場所の利用許可(減免)、事業の共催、運営検討会の企画など)を通じて関わります

○活動支援

- ・ファーストステップ支援、伴走サポート
- ・スタート時の資金調達支援
- ・試行する機会の提供

2. おさらい

○3月4日検討会の開催結果

- ・実施概要

日時：3月4日 18時30分～20時30分

会場：オンライン



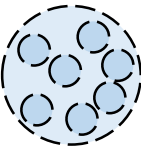
人数：10人

ゲストスピーカー：かわさき市民活動センター
福森様

2. おさらい

○2月4日中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会意見まとめ

- ・意見交換テーマ①<運営の仕組みについて>
- ・運営の仕組みのパターン比較

比較の視点	Aパターン	Bパターン	Cパターン
イメージ図 ・概要	 <p>・各取組をルールだけでゆるく縛る (例: 月1回の定例会で進捗確認する)</p>	 <p>・事務局が各取組の連絡調整を行う</p>	 <p>・1つの団体が各取組を含むすべてを直接行う(例: 幸区、多摩区のSDC)</p>
組織としてのわかりやすさ (市民にとっての使いやすさ)	×	△	○
運営への参加しやすさ	○	△	×
運営の始めやすさ	○	△	×

・前提として検討が必要な課題

- ・デッサン修正案に記載した機能案のうち、どの機能を実践するか
- ・SDC本体の取組と地域活動の区別(各パターンの小さな○は何を指してる?)
- ・既存団体・事業との連携 → 後日Slackで情報交換

2. おさらい

○かわさき市民活動センター活動紹介

- ・前身の川崎ボランティアセンターは、住民からの市への投げかけでできた法人で、前身を含めると40年活動している。
- ・市民活動センターへの移行時、市において、市内を3層構造（全市、区、地域）に分けて中間支援の考え方が整理され、市民活動センターは全市の拠点とされた（区は区役所、地域はこ文）。
- ・こ文の運営も担っており、職員は300名いる。そのうち、市民活動支援の係は8名。
- ・5本柱（人・モノ・金・情報・交流）で中間支援を行っている。人（研修等）、モノ（貸事務所、ロッカー、印刷コーナー）、金（助成金：原資1,700万円）、情報（法律、ボランティア募集情報等を集めて提供する、HP、インスタ、ユーチューブ動画、現場を知ってもらう、応援ナビ）、交流（つながり・ネットワークづくり、相乗効果・化学反応、出会い・マッチング）、各柱の土台は職員の相談（アンテナ広げて、何気ない世間話から課題を抽出）。

2. おさらい

○かわさき市民活動センター活動紹介

【質疑】

・ SDCの目的の中で、市民活動センターができていないことはあるのか。 3層構造でカバーしていると思う。SDCを作るよりむしろ市民活動センターをPRする必要があるのではと感じている。

→センターの立地から、中原・高津区の団体の利用が多い。かと言って、中原区に根をはった活動ができているわけではなく、市全域では、薄く広くになっており、人と人との顔が見える関係まではできていないところが弱いところと考えており、地域住民の方が自らそれぞれの課題を解決できるよう集まるSDCには、その点ではかなわないかと考えている。 地域の拠点として活動を行っているこ文と有機的に関わってもらえたらよいと考えている。

I. 中原SDCの目的/存在意義

①社会背景

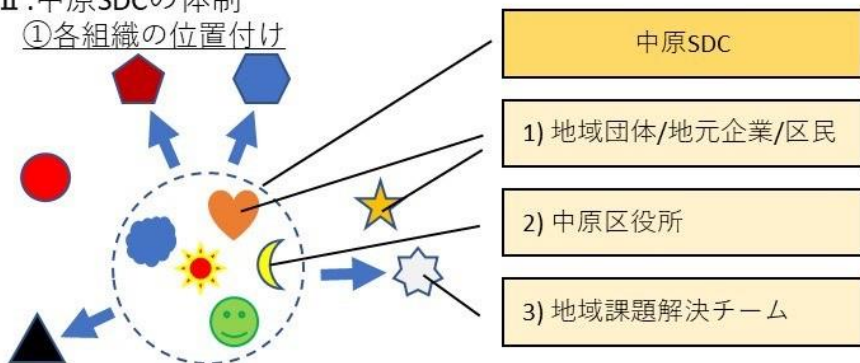
- ・価値観の多様化から従来の画一的な行政サービスが限界化
- ・超高齢社会、ポスト成長時代における豊かな生き方の模索

②目的/存在意義

- ・自分たちの町の課題は自分たちで解決する、の実現
- ・多世代が関わり、寛容で親しみやすい組織

II. 中原SDCの体制

①各組織の位置付け



②構成員

- 1) 地域団体/地元企業/中原区民など
 - ・スポーツや文化活動団体、区内に店舗や事務所がある企業、区民。市民活動センタなども含む区内の広くあまねく組織/個人
 - ・中原SDCに参加しているもの（♡）も参加していないもの（☆）もあるが、できるだけ多くの団体の参加を目指す
- 2) 中原区役所
 - ・中原SDCのクレジット担保や知恵袋。運営を依存する先ではない
- 3) 地域課題解決チーム
 - ・中原SDCから生み出された活動を実施する主体。

③中原SDCの活動内容

- 1) 定例活動
 - ・各種地域団体等の活動を「知る」、それらの団体が「集う」、「つながる」機会を提供。みずからは活動の主体とはならない
 - ・各団体等のニーズ/ウォンツのマッチングにより地域課題の解決をはかる（そのためにチームが組成された場合、②-3）となる）

- ・2週or月に一度、2時間/回の「寄合い」実施
寄合い実施内容は別途検討
Ex. 活動紹介/自己紹介、あったらいいなグループワーク等

2) 任意活動

- ・利用可能な場所での随意交流（詳細はⅢ.活動場所参照）

④運営体制

以下業務を地域課題解決チームの持回りor常設チーム組成で対応

1) 事務局

- ・定例活動時の各種手配や当日のファシリテーション

2) 情宣

- ・中原SDCの活動を広報、不参加団体等（☆）への加入勧誘

3) 名簿整理

- ・参加/不参加団体等の名簿管理
団体名/代表名/連絡先/HP等紹介ページ/主な取り組み内容を取りまとめデータベース化

4) 会計

- ・活動場所利用実費の支払い。そのため最低限の収益の管理

III. 活動場所

①主たる活動場所

- ・リアル：中原市民館、オンライン：Facebook（案）

②従たる活動場所

- ・リアル：おおきな木？他...、オンライン：Twitter、Instagram

（蛇足）

IV. 発展

①アプリ開発

- ・任意活動時、主/従活動場所に入ったらQRコードでチェックイン
他のメンバにPUSH通知でお知らせし、その団体に会いに行ける

②中原活動団体ポータル

- ・上記Ⅱ.④_3)のデータベースを、団体等の承諾のもとポータルサイトとして公開。各団体の取り組み内容を一元的に見える化

2. おさらい

○意見交換＜SDCの運営計画について＞【ノート抜粋】

定例会について	<ul style="list-style-type: none">・とりあえずの集まりは不要。定期的なマッチングする会とか、勉強会などの企画ありきの定例会ならいると思う。・「ゆるやかな」が重要。もう既に課題を持っているなら定例会を開催するのはいいと思うが、相談したいことがあった時に集まれたらいいなと思う。
SDCの運営について	<ul style="list-style-type: none">・人と人とのつながりは、顔を付き合わせないと見えてこないものがある。・区と言っても全区のことをわかる人はいないので、サテライト的なものを作り、全区レベル、町会レベルに分けて運営することを想像している。・事務局を担える人がいるのかが心配。・市民活動センターに区担当を設ければ解決するのではないか。・包括的なことを目的に考えると重複感の出る部分がある。この目的の部分をもっと具体的に考えていく必要がある。NMNの活用チームが発足したワークショップをイメージしており、あまねくではなく、そうした課題を解決することを考えている。・やりたいこと、やれることをみんなが持ち寄って考えるというコンセプトがあって、だからこそ事務局の必要性の議論になったと認識している。今は、求められること、やるべきことの議論になって、できるの？という話になっていると思う。・まずは、活動している人等の出会いを作る場から作るのがいいのでは。そこから課題に結びつくのではないか。・各地区のコミュニティカフェとつながるのがいいと思う。活動をしておらず全然関わっていない人がつながることが重要だと思った。

2. おさらい

○意見交換＜SDCの運営計画について＞【ノート抜粋】

運営の担い手の決め方について	<ul style="list-style-type: none">・イメージが人によって違ってしまっているので、運営がやることをすり合わせしないと決められない。・今集まっているメンバーで検討して行くのでいいと思う。早めにスモールスタートするのがいい。・何をやるのかをまずは決める必要があり、そこから必要な体制が見えると思う。・活動団体を知る場が必要。・みんなで協力して行けば、何とかなると思う。できることは手伝いたいと思っている。
やりたいことについて	<ul style="list-style-type: none">・「市民健康の森」が発足して20年たち、リニューアルが必要な時だから、こういう課題をSDCとしても一緒に解決していけるとよいと思っている。 <p>→やってみたい。</p>

2. おさらい

○3月4日検討会開催後のSlack投稿まとめ

・課題と対応策

課題	対応策
<ul style="list-style-type: none">・活動センター、区社協などSDCと同じような目的のものがある。・区民に知ってもらいたい。それらの取組を分析しないままと同じようなものができてしまう。	<ul style="list-style-type: none">・SDCで知ってもらう取組ができれば
<ul style="list-style-type: none">・運営形態は。誰が運営するか。	<ul style="list-style-type: none">・事務局ありきでない形態を目指す。やりたい活動をやりたい人がやる。定例会も同じで良いのでは。・SDCの取組とするルールが必要（Slackで名乗るだけでもいい）・事務局も持ち回りで・ルール今の段階でガチガチにする必要ない。
<ul style="list-style-type: none">・参加者募集、マッチングはSDC発の取組？SDC自体の取組？・かわら版などはSDC発でいいのでは。SDC自体の取組でもいい。	<ul style="list-style-type: none">・マッチングはSDC自体の活動で問題ない・ロゴ欲しい

2. おさらい

○3月4日検討会開催後のSlack投稿まとめ

・その他意見

その他意見
<ul style="list-style-type: none">・拠点あるといい。市民館。・拠点でなくても気軽に集まれる場所欲しい、活動センターテーブル1つでも。
<ul style="list-style-type: none">・初心者にはSDC自体よりSDC発の取組の方が参加しやすい。
<ul style="list-style-type: none">・定例会は休日や平日もっと遅い時間など試してほしい
<ul style="list-style-type: none">・かわら版と盛り上げ隊で募集広報は非効率かも。
<ul style="list-style-type: none">・SDCの目的は「知る、集う、つながる」を効率化するアイデアを持ち寄り実現する仕組みを生み出す。・SDCの目的は「既存の仕組みの問題点をあぶり出し、解決のためのアイデアを練り、その実現に尽力する」
<ul style="list-style-type: none">・地域デザイン会議について知りたい <p>→Slackで情報提供済</p>
<ul style="list-style-type: none">・Nakahara Rewards Club！（なかはら リWARDS クラブ！）の提案 <p>活動センター、区社協などを活用した市民活動参加促進の企画</p>

3. 地域包括支援センター活動紹介

○みやうち地域包括支援センター 佐藤様 より

お話を伺います！

4. 意見交換

○2月18日中原区SDC創出に向けた検討会資料抜粋

3. 意見交換

○SDCの運営の仕組みについて

- ・前提として検討が必要な課題
 - ・デッサン修正案に記載した機能案のうちどの機能を実践するか
→今ある資源でできる取組を検討し積み上げるしかない？
 - ・SDC本体の取組と地域活動の区別
→現時点で明確に区別、定義するのは難しいのでは？
 - ・既存団体・事業とのすみ分け
→十分に把握した上で、SDCの取組を検討していく？

⇒本日の検討を土台にして、次回以降できること（具体的な取組）を
検討したいと考えています

4. 意見交換

○創出に向けた検討の流れ(案)

今日の議題

スモールスタートでまずやってみる取組を決める



取組を回していく運営の仕組みを決める



必要最低限のルール（どんな取組がSDCの取組と名乗れるか等）を決める



まずはスモールスタート！！

I. 中原SDCの目的/存在意義

①社会背景

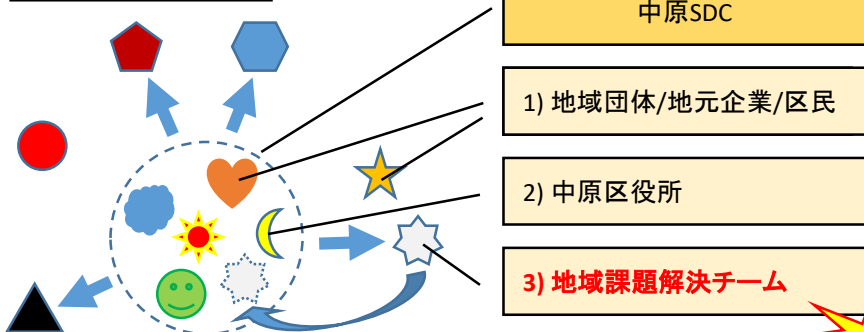
- ・価値観の多様化から従来の画一的な行政サービスが限界化
- ・超高齢社会、ポスト成長時代における豊かな生き方の模索

②目的/存在意義

- ・自分たちの町の課題は自分たちで解決する、の実現
 ~『知る・集う・つながる』をもっと効率化するための知恵やアイデアを持ち寄る
 それを実現するための新しい仕組みを創り出す
- ・多世代が関わり、寛容で親しみやすい組織

II. 中原SDCの体制

①各組織の位置付け



論点

②地域課題解決チーム

- ・中原SDCから生み出された、課題解決の仕組みを実現する主体
- ・中原SDC内で、a) 課題提起、b) 解決方針の刷り合せ、c) チームアップがなされれば活動開始
- ・現状は「なかはら盛り上げ隊」「超」ローカルかわら版

③中原SDCの活動内容

論点

- 1) “YORIAI”の実施(寄合い/燃り愛)
 - ・顔を合わせることでこそアイデアが生まれる
 - ・定期活動日を設定するものの、参加は任意・広く区内に告知(第一金曜・第三木曜など)
 - ・コンテンツ
 - a) 中間支援活動 勉強会
 中間支援団体(?)を招き、その取組と位置付けの理解を深める
 - b) 市民活動団体 交流会
 市民活動団体を招き、活動の紹介や告知を実施
 - c) 課題解決グループワーク(任意参加)
 市民活動をする中での困りごと、あったらいいなについてディスカッション
 - d) …
- 2) 地域課題解決チーム分科会
 - ・取り組みたい課題が共有できたチームは、個別に検討推進
 - ・区役所含む中原SDCメンバに随時相談可能
- 3) …

④運営体制

- ・事務局業務は最小限の業務とし、中原SDCメンバで持ち回り
- ・～YORIAIの各種手配や当日のファシリテーション
- ・区民への告知は、超かわら版を活用

論点

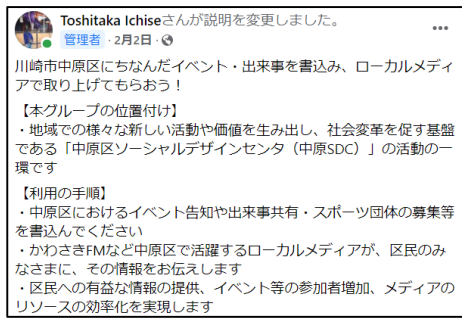
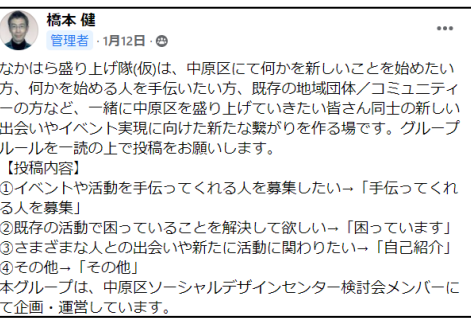
III. 活動場所

- ①主たる活動場所
 - ・リアル: 中原市民館、オンライン: Facebook(案)
- ②従たる活動場所
 - ・リアル: おおきな木ほか区内5地域に一つずつ設置
 - ・オンライン: Twitter、Instagram

IV. スケジュール感

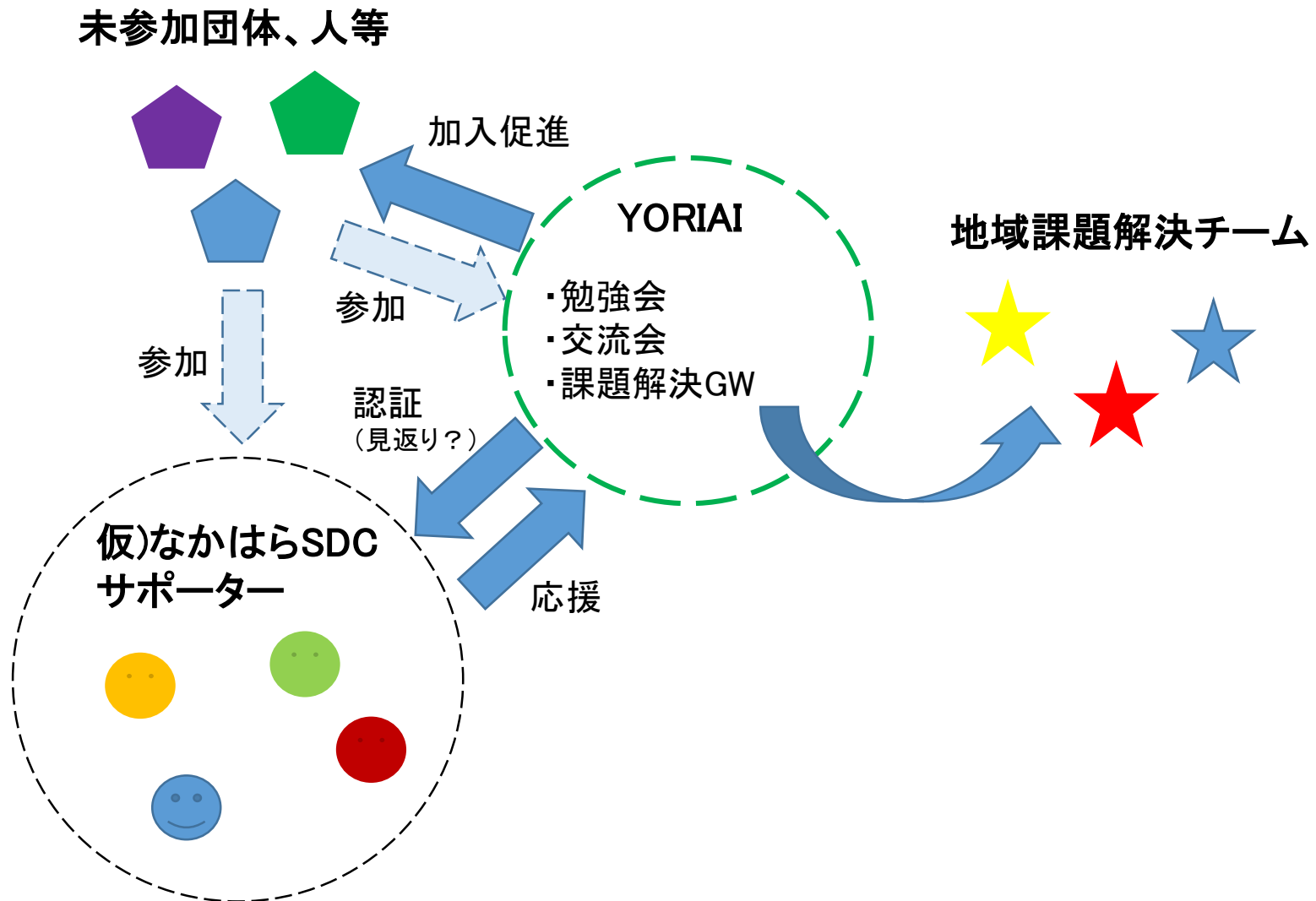
- 【2022/4(or 5)～】中原SDC設置宣言
- ・市民館確保、Facebook整備、広報開始(超かわら版)
- ・YORIAI準備開始、課題解決チーム組成(あと1-2チーム)
- 【2022/10～】中原SDC活動開始
- ・YORIAI_1st 開催

論点



4. 意見交換

○まずやってみる取組(中原区SDC企画案)について



4. 意見交換

○今後の集まりの開催について

日時：

会場：

議題：

おわりに

ご不明な点やご意見、また、新しい参加者のご紹介も常時歓迎しておりますので、何かございましたら、中原区役所企画課までご連絡くださいますようお願いいたします。

今日は
ありがとうございました

